

【小施策評価(令和3年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	学校教育課
施策	17	子どもの教育の充実	評価 責任者	紀 修 内線 7330
小施策	17-1	小中学校教育の充実	評価 シート 作成者	松坂 保広 内線 7332

小施策の概要

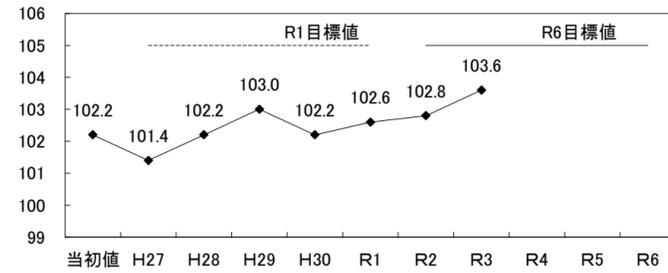
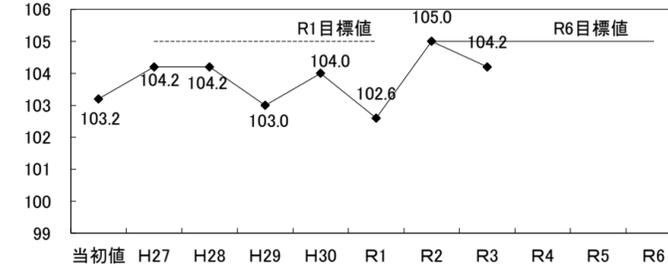
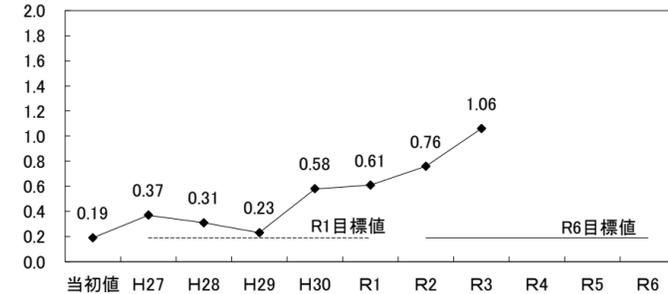
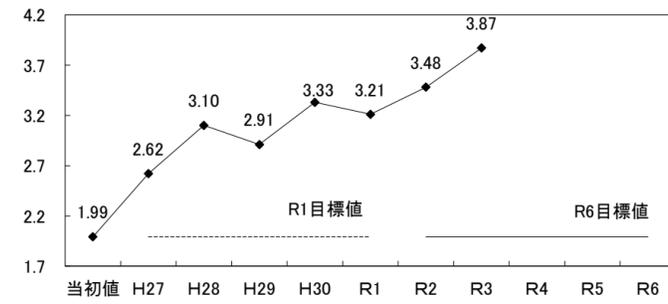
現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<p>学力検査において、小学校の国語、算数及び中学校の国語、数学、英語とも全国水準を上回っているが、中学校の数学、英語は一層の向上を図る必要がある。また、義務教育9年間の系統性のある指導の充実を図る必要がある。</p> <p>いじめやスマートフォンの使用に係る問題が発生していることから、生命を尊重する心や他人を思いやる心など、道徳的価値の自覚を促し、豊かな人間性を育む必要がある。</p> <p>体力運動能力検査において、小中学校ともに走力に課題が見られることから、体力向上の取組の充実・改善を図る必要がある。また、学校給食については、老朽化した施設・設備の整備などを進める必要がある。子どもを取り巻く環境が大きく変化してきていることから、児童生徒・家庭・地域社会・学校・行政が連携を図り、それぞれの役割と責任を明確にしながら、地域の子どもは地域で育てるという市民協働の教育を推進する必要がある。</p>	<p>児童生徒の学力の実態を的確に把握しながら、基礎的・基本的な学力の向上を図る。また、各中学校区の実状に応じて、これまでの連続した教育活動をより一層強化するものとした小中一貫教育や、自立して社会で生きていくための基礎を育むキャリア教育、情報化社会に対応した情報モラル教育を進める。</p> <p>学校の教育活動全体を通じた道徳教育の充実のほか、いじめを「つくらない」「みのがさない」「のこさない」取組や不登校対策の充実を図る。また、小中学校児童生徒を対象に、盛岡の先人や風土・文化を盛り込んだ先人教育を進める。</p> <p>学校保健事業や体育振興事業の充実に努めながら、児童生徒の健康の保持と体力・運動能力の向上を図る。また、学校給食については、都南学校給食センターをはじめとする老朽化した各調理場の適正な規模、配置などを検討し、計画的に改築等を進める。</p> <p>地域の教育課題を明確にしながら、学校と家庭、地域が一層連携を深め、地域に根ざした教育振興運動を展開する。</p>
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
小中学生	・学力の向上が図られる。・心身ともに健全育成が図られる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和3年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	問題点
指標① 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較 【小学校4年生・国語】	ポイント	↗	・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の全国比では、「読むこと」領域の全国比が110、「話すこと・聞くこと」領域が112、「書くこと」領域が114となっており、いずれも全国平均を上回っている。 ※全国学力・学習状況調査の結果:小学校6年生国語105 ※岩手県学習定着度調査の結果:小学校5年生国語105	・盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」を位置付けた授業が浸透してきたことによると考えられる。 ・児童生徒質問紙調査(5年生)において、家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答する児童が県平均を上回る状況が継続していることによると考えられる。	・誤答率が5割以上である小問内容6項目のうち、4項目が「書くこと」領域の内容である。
当初値 (H25) 110.6	R1目標値 113.0	R6目標値 113.0			
指標② 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較 【小学校4年生・算数】	ポイント	↗	・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の平均正答率では、「図形」領域の全国比が106、「数と計算」領域が110、「量と測定・データの活用」領域が106となっており、いずれも全国平均を上回っている。 ※全国学力・学習状況調査の結果:小学校6年生算数100 ※岩手県学習定着度調査の結果:小学校5年生算数103	・盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」を位置付けた授業が浸透してきたことによると考えられる。 ・児童生徒質問紙調査(5年生)において、家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答する児童が県平均を上回る状況が継続していることによると考えられる。	・誤答率が5割以上である小問内容2項目は、いずれも「図形」領域の内容である。
当初値 (H25) 108.4	R1目標値 110.0	R6目標値 110.0			
指標③ 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較 【中学校2年生・国語】	ポイント	↗	・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の平均正答率では、「話すこと・聞くこと」の全国比が111、「書くこと」領域が108、「読むこと」領域が104、「伝統的な言語文化と国語の特質」領域が105となっており、いずれも全国平均を上回っている。 ※全国学力・学習状況調査の結果:中学校3年生国語107 ※岩手県学習定着度調査の結果:中学校2年生国語105	・盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」を位置付けた授業が浸透してきたことによると考えられる。 ・児童生徒質問紙調査(3年生)において、家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答する生徒が県平均を上回る状況が継続しており、学習と部活動とのバランスが図られていることが考えられる。	・「書くこと」領域における「文や文節、単語についての理解」が全国比100となっている。
当初値 (H25) 104	R1目標値 107	R6目標値 107			

今後の方向性(令和4年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R4年度着手または着手予定 ☆…R5年度以降の着手を検討
★ 校内研究会等において、全市の共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を繰り返すとともに、目的や条件を踏まえて書く活動、適切に表現する学習活動に重点を置きながら「考えを深める学び合い」の保障等「児童生徒一人一人に資質・能力を育成することを目指した授業改善」につながる具体的な指導・助言を行う。	★ 「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。
★ 各学校の改善に向けた取組事例を共有しながら、児童生徒の学力向上を図る。	★ 家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に取り組む児童を育成する。
★ 校内研究会等において、全市の共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を繰り返すとともに、図形の性質や図形の作図の根拠の理解促進のため、「関連付けて考える」学習活動に重点を置きながら「考えを深める学び合い」の保障等「児童生徒一人一人に資質・能力を育成することを目指した授業改善」につながる具体的な指導・助言を行う。	★ 「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。
★ 各学校の改善に向けた取組事例を共有しながら、児童生徒の学力向上を図る。	★ 家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に取り組む児童を育成する。
★ 校内研究会等において、全市の共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を繰り返すとともに、読みやすく分かりやすい文章にする学習活動に重点を置きながら「考えを深める学び合い」の保障等「児童生徒一人一人に資質・能力を育成することを目指した授業改善」につながる具体的な指導・助言を行う。	★ 「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。
★ 各学校の改善に向けた取組事例を共有しながら、児童生徒の学力向上を図る。	★ 家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に取り組む児童を育成する。

<p>指標④ 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生・数学】</p>	<p>単 位 ポイント</p>	<p>目指す方向 ↗</p>	<p>成果点</p>	<p>成果の要因分析</p>
<p>当初値 (H25) 102.2 R1目標値 105.0 R6目標値 105.0</p>			<p>・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の正答率では、「数と式」領域の全国比が107、「図形」領域が113、「関数」領域が105、「資料の活用」領域が103となっており、いずれも全国平均を上回っている。</p> <p>※全国学力・学習状況調査の結果：中学校3年生数学101 ※岩手県学習定着度調査の結果：中学校2年生数学109</p>	<p>・盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」を位置付けた授業が浸透してきたことによると考えられる。</p> <p>・児童生徒質問紙調査(3年生)において、家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答する生徒が、県平均を上回る状況が継続しており、学習と部活動とのバランスが図られていることが考えられる。</p>
			<p>問題点</p> <p>・「資料の活用」領域における小問「ヒストグラムや相対度数」については9の内容のうち3の内容で全国通過率を下回っている。</p>	<p>問題の要因分析</p> <p>・生徒が「数学的な見方・考え方」を働かせて、論理的、統合的・発展的に考える機会や、表・式・グラフに関連させながら事象について考察したり表現したりする機会が不足していると考えられる。目的に応じて資料を収集し、コンピュータを用いたりするなどして表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取る学習の機会が不足していることが考えられる。</p>
<p>指標⑤ 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生・英語】</p>	<p>単 位 ポイント</p>	<p>目指す方向 ↗</p>	<p>成果点</p>	<p>成果の要因分析</p>
<p>当初値 (H25) 103.2 R1目標値 105.0 R6目標値 105.0</p>			<p>・数研式全国標準学力検査(NRT)の結果において、全国平均より高い水準であった。各領域の正答率では、「書くこと」領域の全国比が108、「聞くこと」領域が105、「話すこと」領域が104、「読むこと」領域が104となっており、いずれも全国平均を上回っている。</p>	<p>・盛岡市学力向上推進事業において、全市的な共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」を位置付けた授業が浸透してきたことによると考えられる。</p> <p>・児童生徒質問紙調査(3年生)において、家庭学習に1時間以上取り組んでいると回答する生徒が県平均を上回る状況が継続しており、学習と部活動とのバランスが図られていることが考えられる。</p>
			<p>問題点</p> <p>・「話すこと」領域の「テーマに沿ってスピーチする」、「読むこと」領域の「英文を正しく読み取る」において、令和2年度に引き続き、全国平均を下回っている。</p>	<p>問題の要因分析</p> <p>・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の全領域でバランスのとれた指導の継続が必要と考えられる。</p>
<p>指標⑥ 不登校児童の出現率【小学校】</p>	<p>単 位 ポイント</p>	<p>目指す方向 ↘</p>	<p>成果点</p>	<p>成果の要因分析</p>
<p>当初値 (H25) 0.19 R1目標値 0.19 R6目標値 0.19</p>			<p>・出現率は増加しているが、令和3年度に不登校の報告があった児童146人のうち、34人(23%)が解消に至っている。</p>	<p>・欠席3日で校内「対応チーム」を発足するなど、組織的な対応をすることが浸透してきていることによると考えられる。</p> <p>・学校外の関係機関やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーとの連携により、支援の充実が図られたことによると考えられる。</p>
			<p>問題点</p> <p>・出現率は目標値に比べて、高いまま推移している。</p> <p>・令和3年度の不登校の人数は、146人となっており、小学校6年生が最も多く、全体の39%を占めた。次いで、5年生が全体の27%を占めている。</p> <p>・令和2年度の全国の出現率は1.00、岩手県の出現率は0.62となっている。</p> <p>・当初値0.19の人数は26人である。</p> <p>・令和3年度の本市の出現率は1.06である。</p>	<p>問題の要因分析</p> <p>・要因の分類では、「無気力、不安、生活リズムの乱れ」が多く、「親子関係、家庭内不和」も見られ、人間関係づくりや学習面に困難を感じたりするなど、不安や悩みを抱える児童が増加してきている。</p>
<p>指標⑦ 不登校生徒の出現率【中学校】</p>	<p>単 位 ポイント</p>	<p>目指す方向 ↘</p>	<p>成果点</p>	<p>成果の要因分析</p>
<p>当初値 (H25) 1.99 R1目標値 1.99 R6目標値 1.99</p>			<p>・出現率は増加しているが、令和3年度に不登校の報告があった生徒275人のうち、77人(28%)が解消に至っている。</p>	<p>・不登校生徒への対応として、不登校児童生徒個票を活用したり、SSWと連携したり、適応指導教室「ひろばモリーオ」や医療、福祉等の関係機関と連携したりする等、各校の実態に応じた対策を心がけていることによると考えられる。</p> <p>・各中学校において、「居場所づくり」や「絆づくり」についての実践が工夫されたことによると考えられる。</p>
			<p>問題点</p> <p>・出現率は目標値に比べて、高いまま推移している。</p> <p>・令和3年度の不登校の人数は、275人となっており、不登校生徒の数は、中学校3年生が最も多く、中学校全体の約38%を占めた。次いで、中学校2年生が全体の約37%を占めている。</p> <p>・令和2年度の全国の出現率は4.09、岩手県の出現率は3.22となっている。</p> <p>・当初値1.99の人数は138人である。</p> <p>・令和3年度の本市の出現率は3.87である。</p>	<p>問題の要因分析</p> <p>・要因の分類では、「無気力、不安、生活リズムの乱れ」といった本人に係る状況が小学生より高くなり、「親子関係、家庭内不和」といった家庭に係る状況の割合が増加傾向にある。</p> <p>・「学業の不振、友人関係をめぐる問題」など学校に係る状況も含め、不登校の要因や背景が、年々多様化しており、家庭との連携を含めた各校における対応が難しくなっていることによるものと考えられる。</p>

- ★ 校内研究会等において、全市の共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を繰り返すとともに、目的に応じて資料を収集し、表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取らせる学習活動に重点を置きながら「考えを深める学び合い」の保障等「児童生徒一人一人に資質・能力を育成することを目指した授業改善」につながる具体的な指導・助言を行う。
- ★ 「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。
- ★ 各学校の改善に向けた取組事例を共有しながら、児童生徒の学力向上を図る。
- ★ 家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に取り組む児童を育成する。
- ★ 校内研究会等において、全市の共通取組内容である「見通しをもつ活動」「考え、学び合う活動」「振り返る活動」の学習活動の意味・意義の説明を繰り返すとともに、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の全領域でバランスのとれた指導の充実を図りながら「考えを深める学び合い」の保障等「児童生徒一人一人に資質・能力を育成することを目指した授業改善」につながる具体的な指導・助言を行う。
- ★ 「各種学力調査における誤答や無回答の要因を分析し、指導に生かすこと」、「『確かな学力育成プラン』の年度をまたいだ共有」を通して、指導改善のCAPDサイクルを機能させる。
- ★ 各学校の改善に向けた取組事例を共有しながら、児童生徒の学力向上を図る。
- ★ 家庭学習について量的な改善が図られてきているため、質的な改善を図るとともに、主体的に取り組む児童を育成する。
- ★ 「新規不登校児童の抑制」が最大の鍵である。不登校を未然に防ぐ学級経営や、学習指導の充実を図り、「居場所づくり」や「絆(きずな)づくり」を通して、全ての児童にとって「不登校にならない、魅力ある学校づくり」を推進する。
- ★ 市教委で作成した不登校未然防止初期対応マニュアルの活用を促進するとともに、不登校の解消に繋がった要因等についての分析も進めて行く。
- ★ 「欠席3日で校内『対応チーム』を発足し、ケース会議を開催する。」という初期対応の基本の徹底について、指導・助言を行う。
- ★ 不登校・別室登校が継続している児童の再登校・学級復帰支援の充実を図るため、「不登校児童生徒個票」を基にした、「具体的計画立案 → 対応 → 評価 → 改善」のPDCAサイクルによる「対応チーム」での組織的な対応の強化に向けて支援する。
- ★ スクールソーシャルワーカーや医療、福祉等の関係機関とのさらなる連携を図る。
- ★ 「新規不登校生徒の抑制」が最大の鍵である。不登校を未然に防ぐ学級経営や、学習指導の充実を図り、「居場所づくり」や「絆(きずな)づくり」を通して、全ての生徒にとって「不登校にならない、魅力ある学校づくり」を推進する。
- ★ 市教委で作成した不登校未然防止初期対応マニュアルの活用を促進するとともに、不登校の解消に繋がった要因等についての分析も進めて行く。
- ★ 「欠席3日で校内『対応チーム』を発足し、ケース会議を開催する。」という初期対応の基本の徹底について、指導・助言を行う。
- ★ 不登校・別室登校が継続している生徒の再登校・学級復帰支援の充実を図るため、「不登校児童生徒個票」を基にした、「具体的計画立案 → 対応 → 評価 → 改善」のPDCAサイクルによる「対応チーム」での組織的な対応の強化に向けて支援する。
- ★ スクールソーシャルワーカーや医療、福祉等の関係機関とのさらなる連携を図る。
- ★ 適応指導教室ひろばモリーオとの連携を図る。

指標⑧ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【小学校5年生:男】	単 位	目指す方向	成 果 点	⇔	成果の要因分析
	ポイント	↗	・50m走、20mシャトルラン、反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、長座体前屈、握力、上体起こしの8種目の調査 ・過去の体力調査結果では、落ち込みが見られる学年ではあるが、令和元年度と令和3年度の全国標準値と比較すると、握力(筋力)・長座体前屈(柔軟性)・立ち幅跳び(瞬発力)の体力の向上がみられる。 ※令和2年度は調査未実施。		・体育の授業等での運動量確保や、盛岡市と体育協会と協力し、SAQTトレーニングの取組によって改善が図られている要因の一つと考えられる。
当初値 (H25)	97.8	R1目標値	101.0	R6目標値	101.0
			問 題 点	⇔	問題の要因分析
			・対象児童の過去の体力調査結果と比べると、20mシャトルラン(全身持久力)と50m走(スピード)は、改善が図られてきているが、全国標準値を下回っている現状である。		・正しい姿勢で歩いたり走ったりできる児童が減少してきている。 ・登下校時の保護者による送り迎えが増えてきていることも要因の一つと考えられる。
指標⑨ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【小学校5年生:女】	単 位	目指す方向	成 果 点	⇔	成果の要因分析
	ポイント	↗	・50m走、20mシャトルラン、反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、長座体前屈、握力、上体起こしの8種目の調査 ・過去の体力調査結果では、長座体前屈(柔軟性)、20mシャトルラン(全身持久力)、ソフトボール投げ(投力)が優れている学年であり、令和3年度では、加えて握力(筋力)、立ち幅跳び(瞬発力)が全国標準値を上回っている。 ※令和2年度は調査未実施。		・体育の授業等での運動量確保や、盛岡市と体育協会と協力し、SAQTトレーニングの取組によって改善が図られている要因の一つと考えられる。
当初値 (H25)	100.5	H31目標値	101.0	H36目標値	101.0
			問 題 点	⇔	問題の要因分析
			・対象児童の過去の体力調査結果と比べると、50m走(スピード)、立ち幅跳び(瞬発力)が全国標準値を下回っている現状である。		・正しい姿勢で歩いたり走ったりできる児童が減少してきている。 ・登下校時の保護者による送り迎えが増えてきていることも要因の一つと考えられる。
指標⑩ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【中学校2年生:男】	単 位	目指す方向	成 果 点	⇔	成果の要因分析
	ポイント	↗	・50m走、20mシャトルラン、反復横跳び、立ち幅跳び、ハンドボール投げ、長座体前屈、握力、上体起こしの8種目の調査 ・過去の体力調査結果では、長座体前屈(柔軟性)、反復横跳び(敏捷性)に優れている学年であり、令和3年度でも長座体前屈(柔軟性)が全国標準値を上回っている。 ※令和2年度は調査未実施。		・体育の授業等での運動量確保や、成長期にある生徒が、運動、食事、休養、睡眠のバランスの取れた生活を送ることができることにより、基礎体力の強化が図られていることが要因の一つと考えられる。
当初値 (H25)	100.4	R1目標値	102.0	R6目標値	102.0
			問 題 点	⇔	問題の要因分析
			・対象生徒の過去の体力調査と比べると、上体起こし(握力・筋持久力)、50m走(スピード)、立ち幅跳び(瞬発力)が全国標準値を下回っている現状である。		・盛岡市のスピード(50m走)の値も上がってきている現状であるが、全国基準値も上がっている。 ・力を発揮するための身体の動かし方の理解を深めることが重要である。
指標⑪ 体力運動能力調査の全国標準(100)との比較【中学校2年生:女】	単 位	目指す方向	成 果 点	⇔	成果の要因分析
	ポイント	↗	・50m走、20mシャトルラン、反復横跳び、立ち幅跳び、ハンドボール投げ、長座体前屈、握力、上体起こしの8種目の調査 ・過去の体力調査結果では、上体起こし(筋力・筋持久力)、長座体前屈(柔軟性)、反復横跳び(敏捷性)、20mシャトルラン(全身持久力)、立ち幅跳び(瞬発力)、ハンドボール投げやソフトボール投げ(投力)に優れている学年であり、令和3年度でも、長座体前屈(柔軟性)が全国標準値を上回っている。 ※令和2年度は調査未実施。		・体育の授業等での運動量確保や、成長期にある生徒が、運動、食事、休養、睡眠のバランスの取れた生活を送ることができることにより、基礎体力の強化が図られていることが要因の一つと考えられる。
当初値 (H25)	100.2	R1目標値	102.0	R6目標値	102.0
			問 題 点	⇔	問題の要因分析
			・過去の調査結果では、筋力(握力)とスピード(50m走)が全国標準値を下回っている現状である。		・盛岡市のスピード(50m走)の値も上がってきている現状であるが、全国基準値も上がっている。 ・力を発揮するための身体の動かし方の理解を深めることが重要である。

<ul style="list-style-type: none"> ★ 徒歩の登下校を呼びかけや日常的な外遊びを働きかける等、60運動とも関連させながら、基礎体力の向上を図っていく。 ★ 体力向上に向けた指導方法や実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。 ★ 「走る」に特化した研究員研究を行い、研究発表会で発表を行う。 ★ 体育の授業等で取り組むウォーミングアップを浸透させながら体力向上を図っていく。(ウォーミングアップDVDの活用)
<ul style="list-style-type: none"> ★ 徒歩の登下校を呼びかけや日常的な外遊びを働きかける等、60運動とも関連させながら、基礎体力の向上を図っていく。 ★ 体力向上に向けた指導方法や実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。 ★ 「走る」に特化した研究員研究を行い、研究発表会で発表を行う。 ★ 体育の授業等で取り組むウォーミングアップを浸透させながら体力向上を図っていく。(ウォーミングアップDVDの活用)
<ul style="list-style-type: none"> ★ 小学校と同様に60運動に取り組むとともに、「走る」に特化しながら、体力の向上を図っていく。 ★ 体育の授業や、部活動を通して、ウォーミングアップの重要性を理解させ、正しい身体の使い方を習得させることで、基礎体力の向上を図っていく。 ★ 体力向上に向けた指導方法や実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。 ★ 「走る」に特化した研究員研究を行い、研究発表会で発表を行う。 ★ 体育の授業等で取り組むウォーミングアップを浸透させながら体力向上を図っていく。(ウォーミングアップDVDの活用)
<ul style="list-style-type: none"> ★ 小学校と同様に60運動に取り組むとともに、「走る」に特化しながら、体力の向上を図っていく。 ★ 体育の授業や、部活動を通して、ウォーミングアップの重要性を理解させ、正しい身体の使い方を習得させることで、基礎体力の向上を図っていく。 ★ 体力向上に向けた指導方法や実践を研究発表会や公開講座で広めることにより、各学校に浸透させながら体力向上を図っていく。 ★ 「走る」に特化した研究員研究を行い、研究発表会で発表を行う。 ★ 体育の授業等で取り組むウォーミングアップを浸透させながら体力向上を図っていく。(ウォーミングアップDVDの活用)

【小施策評価(令和3年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	学務教職員課	
施策	17	子どもの教育の充実	評価 責任者	飯岡 竜太郎	内線 7320
小施策	17-2	幼稚園教育の充実	評価 シート 作成者	伊藤 佳子	内線 7321

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
子育て相談などの子育て支援、小学校及び地域との連携の一層の充実を図る必要があります。		生涯にわたる人格形成の基礎を培うため、望ましい幼児教育や教育環境を提供するとともに、保護者への支援に取り組めます。また、幼稚園と小学校、地域との連携を深めます。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
幼児		健やかな成長が図られる。
保護者		安心して幼稚園教育を受けさせることができる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和3年度実績)

実績値の推移				実績の評価																									
指標①	単 位	目指す方向	成 果 点	⇒	成果の要因分析																								
保護者の満足度(市立幼稚園の保護者アンケートによる)	%	↗																											
当初値 (H25)	85	R1目標値	100	R6目標値	100																								
<table border="1"> <caption>実績値の推移 (保護者の満足度)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>満足度 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>当初値 (H25)</td><td>85</td></tr> <tr><td>H27</td><td>85</td></tr> <tr><td>H28</td><td>83</td></tr> <tr><td>H29</td><td>82</td></tr> <tr><td>H30</td><td>77</td></tr> <tr><td>R1</td><td>86</td></tr> <tr><td>R2</td><td>93</td></tr> <tr><td>R3</td><td>97</td></tr> <tr><td>R4</td><td></td></tr> <tr><td>R5</td><td></td></tr> <tr><td>R6</td><td></td></tr> </tbody> </table>						年度	満足度 (%)	当初値 (H25)	85	H27	85	H28	83	H29	82	H30	77	R1	86	R2	93	R3	97	R4		R5		R6	
年度	満足度 (%)																												
当初値 (H25)	85																												
H27	85																												
H28	83																												
H29	82																												
H30	77																												
R1	86																												
R2	93																												
R3	97																												
R4																													
R5																													
R6																													
			<ul style="list-style-type: none"> 保護者の満足度(・喜んで登園している・園は情報を伝える努力をしている・園児をよく理解し、性格や長所を把握して指導に当たっている)が向上している。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の幼児理解に基づく個の特性に応じた指導や、異年齢のつながりを重視した教育活動等、幼稚園から保護者への積極的な情報発信などの取組により、保護者の満足度が向上していると考えられる。 																								
			問題点	⇒	問題の要因分析																								
			<ul style="list-style-type: none"> 各幼稚園では、園児の減少に伴い、集団が小規模となり、幼児同士の人間関係の固定化や体験できる遊びの限定、集団生活を通して身に付けなければならない社会性をはぐくむことが難しい状況が生じている。 保護者のニーズに対応した預かり保育その他の取組の充実が求められている。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> 保育所のニーズの高まり、保育料の無償化、そして、地域内における私立幼稚園の複数設置といった状況から、園児数の減少が顕著になっていると考えられる。 預かり保育その他の取組の充実が求められているが、運営効率の面から様々な取組の拡大は難しい状況である。 																								

今後の方向性(令和4年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R4年度着手済または着手予定 ☆…R5年度以降の着手を検討
★1 一人一人の子どもの性格や長所等を把握して、きめ細かな幼児教育を提供したり、異年齢集団の教育活動の充実を図ったりするとともに、園だよりやクラスだよりを中心に保護者への情報発信を図る。	
★2 コロナ禍での対応となるが、可能な限り、アプローチカリキュラムを活用し、幼稚園教育と小学校教育の相互理解と円滑な接続を図るとともに、近隣小学校との交流活動の推進を図る。	
★3 園児数減少の影響により、教育活動が限定されたり、集団生活を通してはぐくむ資質・能力の育成が困難な状況も見られたりすることから、閉園も含めた今後の園の在り方について、保護者や地域住民の意見も含めて検討する。	
☆1 市教委学校教育課による研修事業とともに、いわて幼児教育センターの幼児教育専門員訪問支援事業も活用し、園内研修の充実を図ることにより、教員の資質向上に努める。	

【小施策評価(令和3年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	学務教職員課	
施策	17	子どもの教育の充実	評価 責任者	飯岡 竜太郎	内線 7320
小施策	17-3	高等学校教育の充実	評価 シート 作成者	伊藤 佳子	内線 7321

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
生徒一人ひとりの進路目標を達成するため、ソフト・ハード両面からの教育環境の整備充実を図る必要がある。	学力の向上と部活動・特別活動の充実を図るとともに、規律のある生活習慣の確立と保健衛生・安全指導を推進するほか、一人一人の個性や希望をいかした進路指導の充実を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
盛岡市立高校生	学力の向上が図られる。 生徒一人一人の希望に沿った進路の実現が図られる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和3年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成 果 点	成 果 の 要 因 分 析	問 題 点
指標① 進学・就職進路達成率(進学・就職進路達成者数(実人数)／(卒業生数))	%	→	<p>・多くの生徒が、志望する大学や専門学校に進学した。</p> <p>・志望する就職先に就職した(18年連続 就職率100%)。</p>	<p>・文武両道の教育方針の下、生徒一人一人の進路目標の実現に向けて、3年間を見通した進路指導計画に基づく指導や生活指導と一体化した進路指導等に取り組んできた。</p> <p>・就職支援相談員の配置により、企業が求める人材と生徒の希望や能力とを効果的に結びつける就職支援が行われ、進路指導が充実した。</p>	
当初値 (H25)	98.3	R1目標値	98.5	R6目標値	98.5
<p>・進学率、就職率の向上に向けた取組を充実させるとともに、社会構造や雇用環境が大きく、急速に変化する時代においても、社会的・職業的に自立し、社会の担い手となる人材の育成に向けた教育の充実が求められている。</p> <p>・進路達成率が低下した。</p>					
指標② 国公立大学合格率(合格者数(実人数)／卒業生数)	%	→	<p>・国公立大学・短大への合格者数が増加した(国公立大学・短大合格者実数55名)。</p> <p>・国公立大学以外も含めた進学希望者231名中、224名が進学し、進学希望者数に占める進学者の割合は、97%となっている。</p>	<p>・文武両道の教育方針の下、受験に向けた指導を効果的に行うことにより、学力の向上を図る授業が充実した。</p>	
当初値 (H25)	15.3	R1目標値	15.0	R6目標値	15.0
<p>・確かな学力を身に付けさせ、安定的に進路目標を実現できる生徒の育成に関して、授業やその他の教育活動の充実が求められている。</p> <p>・特別進学コースの存在価値を明らかにするとともに、安定的な合格率を維持するためには、主要5教科の学びを基にした言語活動重視の対話型授業によるコミュニケーション能力の育成が求められており、そのような観点から、授業力向上に関する教職員の更なる研修は必要不可欠である。</p>					

今後の方向性(令和4年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R4年度着手または着手予定 ☆…R5年度以降の着手を検討
<p>★1 キャリア教育を充実させ、社会的・職業的自立に向けた総合生活力と人生設計力を育成する。</p> <p>★2 一人一人の自己実現に向けて、きめ細かな指導体制を確立する。</p> <p>★3 進路実現を支えるための教員・保護者向けの研修会・説明会を充実させる。</p> <p>★4 「総合的な探究の時間」等とおして、地域・企業と連携し、進学希望者、就職希望者問わず、社会経済の仕組みの理解、地域理解、職業に関する知識を身に付けさせ、職業選択の能力や将来設計能力などを育成するキャリア教育の一層の充実を図る。</p> <p>★5 キャリア教育の一環として、起業家精神や起業家的資質・能力を育成するための「起業家教育」を教育課程に位置付け、その充実を図る。</p>	
<p>★1 コロナ禍での対応となるが、可能な限り岩大教職大学院からの教育実習生の受入や、県総合教育センターと連携を進め、生徒が意欲を高め、主体的に活動する授業づくり及び対話による授業展開についての研修を実施し、生徒の意欲が引き出される授業の改善へとつなげる。</p> <p>★2 新学習指導要領の趣旨に基づいた教育課程の編成と授業改善を推進する。</p>	

【小施策評価(令和3年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	学校教育課	
施策	17	子どもの教育の充実	評価 責任者	紀 修	内線 7330
小施策	17-4	教職員研修の充実	評価 シート 作成者	松坂 保広	内線 7332

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
学校の教育課題は年々複雑・多様化していることから、職能・経験年数や教育課題に応じた幅広い研修を実施し、教職員の資質や指導力の向上を図る必要がある。		日々の教育実践に必要な教職専門職としての研修を行い、教職員の資質や指導力の向上に努め、教育の質的向上を図る。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
教員		誠実公正でかつ指導力が向上されている。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和3年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 教育研究所公開講座参加者数	人	↗	<p>・令和元年度から、夏季のみ年1回の開催としている。</p> <p>・3年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、各講座に一定の定員を設けて開催した結果、目標値を超える参加者数となった。</p>	⇒	<p>・公開講座の内容を吟味し、今日的教育課題(学習指導要領への対応・保幼小接続・自殺予防等)や各学校が課題としている内容(教育相談・特別支援教育等)、市の特色ある教育(先人教育等)、授業改善等ニーズの比較的高い講座を位置付けたことが、教員の講座への参加意欲に繋がったと考えられる。</p>
当初値 (H25) 602	R1目標値 400	R6目標値 400	<p>問題点</p> <p>・夏期休業中の開催のため、中学校体育連盟主催の東北大会や、高校体験入学等と重なり、中学校からの参加数が伸びなかった。</p>		
指標② 公開講座参加者の満足度	ポイント	↗	<p>・参加者アンケートでは、満足度は高い(4段階評価のうち3と4が多く、平均3.69)。</p> <p>・アンケートでは、ICTをはじめ、ニーズに合った講座を開設したことに対する評価の声が多く見られた。</p>	⇒	<p>・研修講座を、前年度の参加者アンケートを踏まえながら位置付けたことや、講座の内容面における充実を図ったことが、満足度の向上に繋がったと考えられる。</p>
当初値 (H25) 99.7	R1目標値 100.0	R6目標値 100.0	<p>問題点</p> <p>・令和元年度及び2年度と比較すると、満足度は下がっている。</p> <p>・低評価の理由としては、他の研修等との開催期日の重なり等、講座の内容以外についての指摘が多く見られた。</p>		

今後の方向性(令和4年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R4年度着手済または着手予定 ☆…R5年度以降の着手を検討
<p>★ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和4年度も各講座に一定の定員を設け、感染症対策を徹底して開催する。</p> <p>★ ICT活用講座、コミュニティ・スクール講座は、喫緊の課題でもあることから、4年度も開催する。</p> <p>★ 県教育委員会が開催する、教育課程説明会等の研修や学校行事等の開催期日等について確認しながら、開催する。</p>	
<p>★ 新型コロナウイルス感染症対策を徹底するとともに、今日的課題、教員のニーズを踏まえ、「ICT活用」「コミュニティ・スクール」「生徒指導(不登校)」に係る講座を含め全14講座を開設する。「ICT活用」については、教員の活用ニーズに応じて、複数の講座を開設する。</p> <p>★ 講座の内容に応じて、各学校の効果的な実践事例を取り上げ、2学期からの教育活動の充実を図る。</p> <p>★ 県教育委員会が開催する、教育課程説明会や学校行事等の開催期日等について確認しながら、開催する。</p>	

【小施策評価(令和3年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	[教委]総務課
施策	2	子ども・子育て、若者への支援	評価 責任者	釜崎 源和 内線 7310
小施策	17-5	学校施設の整備・充実	評価 シート 作成者	齊藤 敏孝 内線 7312

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
施設の老朽化・劣化が進んでいることから、計画的・効率的な施設の整備や適切な維持保全による施設・設備の長寿命化を図る必要がある。また、バリアフリー化などの学習環境の整備や災害時の地域の避難所としての機能の充実も必要となっている。	予防保全型の計画的な修繕を行うことにより、学校施設の適切な維持管理と長寿命化の視点に立った施設・設備の保全を計画的に推進する。また、大規模改修を行う際は、ユニバーサルデザインの導入により安全性を確保するとともに、災害時の地域の避難場所としての機能を確保する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
小中学校施設等	充実した教育環境に整備され、良好に保たれている。
小中学生	・小中学生の学校内での安全性が向上する。 ・小中学生が、快適な環境で学校生活を過ごすことができる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和3年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標①	単 位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	問題点
校舎等改修工事の着手校数	校	↑	<ul style="list-style-type: none"> 既に着手している2校(大新小、城西中)の校舎大規模改修工事を完了できた。 既に着手している2校(見前小、北陵中)の校舎大規模改修工事に係る実施設計を完了できた。 既に着手している2校(仙北小、津志田小)の校舎トイレ改修工事を完了できた。 新たに3校(山岸小、月が丘小、下小路中)の校舎安全対策のうち外壁等の改修に係る設計を完了できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 工事の実施により想定される課題及び工事期間中に生じた課題について、学校、地域の関係団体、関係部署及び受注業者等との調整を図り、課題解決につなげたことによる。 大新小については、児童センターとの複合化を実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設について、限られた財源を効果的に活用し、計画的な保全の実施と施設の長寿命化を図り、次世代に大きな負担を強いることなく、「公共施設の保有の最適化」を推進し、持続可能な市民サービスの提供を目指すことが必要であるが限られた財源の中、「公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」のスケジュールに基づく大規模改修を実施できておらず、進捗が遅れている。
当初値 (H25)	1	R1目標値	13	R6目標値	48
			問題点	問題の要因分析	

今後の方向性(令和4年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R4年度着手済または着手予定 ☆…R5年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> ★ 「長寿命化工事実施マニュアル」に基づき、事業費の精査を行い、限られた財源を効果的に活用することにより、将来にわたって様々なニーズに対応できる施設整備に努めていく。また、「公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」の改訂を受け、令和3年7月に策定した「盛岡市立小中学校校舎安全対策改修計画」及び令和3年7月に改訂した「盛岡市有公共施設トイレ環境整備計画」に基づき、小中学校施設について集中的に取り組む。 <ol style="list-style-type: none"> 校舎安全対策改修 校舎・屋内運動場のトイレ整備 ★ 他用途施設との複合化 「盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」と整合を図りつつ、施設の複合化が円滑に進むよう関係団体、関係部署等と緊密な調整を進めていく。 ★ 学校プール老朽化への対応 次に掲げる対応の検討を進める。 <ol style="list-style-type: none"> 複数校でのプール施設の共同利用 民間施設を活用した水泳指導 総合プール等の市立プール施設の活用 	

【小施策評価(令和3年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

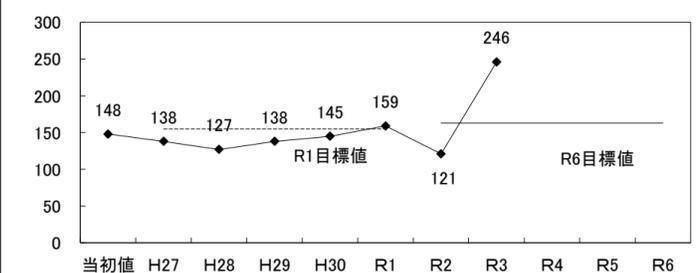
基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	生涯学習課	
施策	18	生涯学習の推進	評価 責任者	梅原 格	内線 7340
小施策	18-1	社会教育の充実	評価 シート 作成者	佐藤 教行	内線 7341

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市民一人一人が、生涯にわたり生きがいを持って充実した生活を営み、学んだ成果を社会に還元することができるように、社会的な課題と市民ニーズを把握した学習機会の拡充を図るとともに、生涯学習に関する相談に的確に対応していく必要がある。		学習情報の提供や学習相談への対応を適切に行うとともに、社会の変化に対応した課題に関する学習機会を提供するほか、地域や家庭における教育力の充実に資するための支援を行う。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民		学習活動の継続と推進を図る。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和3年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 学びの循環推進事業の利用回数		単 位	目指す方向	成 果 点	成果の要因分析
当初値 (H25)	148	回	↗	<ul style="list-style-type: none"> 学びの循環推進事業は、多彩な講座メニューを用意し、学習団体を始めとする市民グループの申請に基づき講師を派遣する事業であり、コロナ禍のなか、実施件数はコロナ以前の件数までは回復していないものの、学習相談の件数は増加しており、市民の継続的な学習活動の推進が図られた。 家庭教育支援など、社会教育事業の実施により、市民の学習機会の充実が図られた。 新成人リーダーの育成が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学びの循環推進事業は、社会的な課題と要求課題を含めた市民のニーズに応じた講座メニューを提供するほか、学習相談を通し、市民の学習意欲に応じた相談及び支援に努めたこと。 コロナ禍においても、感染防止対策をしながら家庭教育支援に係る講座の開催、家庭教育情報誌の発行、青少年教育、社会教育関係団体への活動支援など、各種社会教育事業を継続し行ったこと。 成人のつどい実行委員会を新成人で組織し、コロナ禍においても工夫した企画運営をすることにより青年リーダーの養成につながっていること。
R1目標値	155			<ul style="list-style-type: none"> 学びの循環推進事業における、岩手大学(教育学部・農学部)と連携して大学教員を講師として派遣する「専門コース」の活用が少ない。 中学生交流事業や中学生リーダー育成事業の多くが実施できなかった。 社会教育団体の公民館利用数について、令和2年度より増加したものの、コロナ禍以前の利用者数までは回復していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学教員による講座は、地域住民の学習要望に比して内容が高度すぎるのではという思い込みから、敬遠されている傾向にある。 生徒の健康・安全を第一と判断し、中学生関連の事業を中止したことによる。 コロナ感染拡大の状況に応じ、公民館利用団体の活動自粛や再開が繰り返されたことによる。
R6目標値	163			問 題 点	問題の要因分析



今後の方向性(令和4年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ★…R4年度着手済または着手予定 ☆…R5年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> ★ 学びの循環推進事業は、「専門コース」における講座名の修正等の検討を含め、岩手大学の生涯学習領域の窓口と連携強化を図りながら、防災・環境等社会的課題や市民ニーズに合致させていくとともに、他大学との連携についても検討していく。 ★ 学びの循環推進事業は、家庭教育学級や社会教育関係団体等における学習説明会の場等を活用するなど、効果的な周知方法を検討する。 ★ 家庭教育支援、青少年教育など社会教育に係る学習機会と団体の育成支援の継続に努める。 ★ 中学生リーダーや新成人リーダーの育成の継続に努める。 	

【小施策評価(令和3年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	生涯学習課
施策	18	生涯学習の推進	評価 責任者	梅原 格 内線 7340
小施策	18-2	社会教育施設の整備・充実	評価 シート 作成者	佐藤 教行 内線 7341

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
生涯学習の推進のためには、活動場所となる社会教育施設の利便性・安全性の確保が必要であり、老朽化した施設・設備の改修・修繕や新築などの要望に適切に対応する必要がある。		社会教育施設の老朽化対策を進め、必要な施設整備を行うとともに、公民館、図書館などの社会教育施設で行う事業を充実させる。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民 社会教育施設		学習の場及び講座等の多様なメニューを提供する。 計画的な整備や修繕を実施する。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和3年度実績)

実績値の推移				実績の評価		
				成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 学習講座数	単 位	目指す方向				
	講座	→				
当初値 (H25)	2,100	R1目標値	2,100	R6目標値	2,100	
<p>・家庭教育支援、青少年教育、成人教育、高齢者教育、芸術・文化活動、地域連携事業の区分ごとに、コロナ禍にあってもソーシャルディスタンスに配慮するなど、安全な運営を図ることを周知しながら多様な講座を開催した。</p>				<p>・各公民館において、利用者ニーズの把握に努め、講座の企画を工夫した。前年度に引き続き中止とした講座もあるものの、新型コロナウイルス感染防止のリスク評価を行い、十分な対策を講じた上で実施した。</p>		
<p>問題点</p>						
<p>・講座メニューにより参加者数の偏りがあった。 ・防災、環境等社会的な課題の学習テーマの参加者が減少した。 ・勤労青年層の参加が少なかった。 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、施設の休館を行ったため、年度を通して実施事業が減少した。</p>				<p>・公民館は、防災、環境等社会的な課題の学習テーマ(必要課題)を実施する社会教育振興の中核施設であるため、市民要望の多い趣味的な学習テーマ(要求課題)とのバランスを図る必要がある。 ・勤労青年層は、就労時間中の参加が困難であり、夜間や休日等参加機会が限定される。 ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、令和3年度中を通して十分な感染防止対策を取れないものや、自粛により参加者が集まらなかった講座は中止とせざるを得なかった。</p>		
<p>問題点</p>						
指標② 社会教育施設利用者数	単 位	目指す方向				
	人	→				
当初値 (H25)	1,186,584	R1目標値	1,187,000	R6目標値	1,187,000	
<p>・中央公民館の大規模改修工事(企画展示室)及び新設駐車場整備を進め、利用者増加と利便性向上に寄与した。 ・利用者増加に繋がる、市立図書館耐震補強及び大規模改修工事について、図書館協議会等で説明を行った上で設計業務を進めた。 ・利用者増加に繋がる、好摩地区公民館の複合化による建替えについて、住民説明会等で説明を行った上で設計業務を進めた。 ・人口が急増する盛南地区の新たな学びの場である、(仮称)南部公民館について、市議会全員協議会等で説明を行った上で整備基本構想を策定した。</p>				<p>・中央公民館の大規模改修工事及び駐車場整備について、進捗管理が適切に行われた。 ・市立図書館の耐震補強及び大規模改修工事について、実施設計及び展示設計の合意形成と進捗管理が適切に行われた。 ・好摩地区公民館の建替えについて、基本・実施設計の合意形成と進捗管理が適切に行われた。 ・(仮称)南部公民館の構想策定について、整備の方向性を定める合意形成が適切に行われた。</p>		
<p>問題点</p>						
<p>・当初値から、社会教育施設利用者数の減少傾向が続いていることに加え、コロナ禍の影響で施設利用者数が減少した。 ・老朽化が進んでいる子ども科学館について、利用者増加に繋がる、展示物の更新を含めた大規模改修等整備の方向性を定めることができなかった。</p>				<p>・少子高齢化や、インターネットの普及などによる学習方法の多様化、施設の老朽化による魅力低下などが施設利用者減少の要因となっている。 ・子ども科学館の整備について、建物の大規模改修とこれに併せた展示物の更新等が課題となっており、財源の確保と効率的な整備手法等、総合的な検討が必要となっている。</p>		

今後の方向性(令和4年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R4年度着手済または着手予定 ☆…R5年度以降の着手を検討
<p>「強化につながるもの」</p> <p>★ 市民ニーズの把握に努め、学習テーマのバランスを図りながら魅力ある講座を実施する。 ★ 各種講座、事業、職員研修の実施に当たり、大学の生涯学習領域の窓口と連携強化を図っていく。</p>	
<p>「強化につながるもの」</p> <p>★ 市立図書館について、工事に伴う閉館期間中における図書サービスを充実させるとともに、図書館協議会委員等の意見を聞きながら、開館後の図書サービスの充実に向け、今後の図書館の在り方を検討していく。 ★ 子ども科学館について、展示物の更新と併せた効果的な整備手法を検討するため、整備基本構想案を作成する。なお、天文台を新たに整備することについては、費用対効果の観点などから、近隣自治体に設置している天文台と連携した事業実施や、ソフト事業の充実などにより代替可能か検討していく。 ★1 (仮称)南部公民館について、早期の事業予算化を図る。 ★ 飯岡地区公民館について、計画的な整備を行うため長寿命化修繕(20年目)を行う。 ★2 地区公民館以外の公民館では、Wi-Fi等の通信環境を整備して、施設の利用促進と市民の利便性向上を図る。 ☆ 上田公民館について、計画的な整備を行うため大規模改修工事を行う。 ☆ 見前地区公民館について、計画的な整備を行うため長寿命化修繕(20年目)を行う。 ☆ 都南図書館について、計画的な整備を行うため長寿命化修繕(20年目)を行う。</p>	

【小施策評価(令和3年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	経済企画課
施策	19	社会を担う人材の育成・支援	評価 責任者	白根 徹 内線 8210
小施策	19-1	若い世代の活躍支援	評価 シート 作成者	小野 哲治 内線 8211

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
若者を取り巻く労働環境は、非正規雇用などの不安定な雇用、求人側と求職側のニーズが一致しない雇用のミスマッチのほか、地元企業の認知度が低く、県外に就職先を求める若者が多いことなどの課題があります。また、教育や職業訓練などを受けない無業者、いわゆるニートと呼ばれる若者が存在するなどの課題もあります。このため、在学中からキャリア教育などによる就労観の育成や地場企業を知る機会を設けるなど、若者が社会で活躍するためのさまざまな支援を行う必要があります。女性の労働力率は、子育て期に当たる30歳台で低下するものの、就職希望者は多く、非常に大きな潜在力となっている一方で、さまざまな課題があることから、就業や社会参加など個々に支援が必要となっています。	若い世代に対して、就業や職場定着などに係る情報提供や各種支援を行い、就学等から就業へ円滑に移行できる環境を整えます。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民	社会で活躍できる

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和3年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	問題点
指標① もりおか若者サポートステーションに年度内に新規登録した盛岡市民のうち就職決定した者の割合	%	↗	当初値 (H28) 63 R1目標値 63 R6目標値 63	・臨床心理士によるカウンセリングが実際の職場への恐怖心を和らげることができた。 ・ボランティア体験の実施が、将来の就職に向けた方向性を見つけることに役立っている。 ・居場所事業の実施により、仲間ができることで励みにつながっている。	・利用者抱える問題が複雑化し、一人ひとりに対する支援に要する期間が長期化する中で、新規登録者に対する就職者の割合は昨年度より増加している。 ・関係機関や病院との連携が図られており、全体の登録者は147人と令和2年度の163人から若干減少したものの、おおむね維持ができています。また、盛岡市在住の新規登録者数も74人であり、令和2年度の78人からは若干減少したものの、おおむね維持ができています。
			<p>・利用者抱える問題が複雑化し、一人ひとりに対する支援に要する期間が長期化する中で、新規登録者に対する就職者の割合は昨年度より増加している。 ・関係機関や病院との連携が図られており、全体の登録者は147人と令和2年度の163人から若干減少したものの、おおむね維持ができています。また、盛岡市在住の新規登録者数も74人であり、令和2年度の78人からは若干減少したものの、おおむね維持ができています。</p>		
<p>・もりおか若者サポートステーションの支援を必要とする若年無業者の全容把握が困難である。 ・もりおか若者サポートステーションの認知が浸透していない可能性がある。</p>			<p>・若年無業者になる背景には、心身の健康上の理由や人間関係に対する不安など、複雑な要因があり、家族が公にすることを避ける例も多いと考えられる。 ・「もりおか若者サポートステーション」がニートや若年無業者に対する支援機関であることを連想しづらい可能性がある。</p>		
指標② ジョブカフェいわての利用者数	人	↗	当初値 (H25) 29,529 R1目標値 55,000 R6目標値	・県事業との連携によるきめ細かなカウンセリング等により、利用者に寄り添った並走的支援ができています。	・積極的に学校を訪問し、セミナーを開催するなどした結果、利用者が目標の1.4倍となっている。
			<p>・積極的に学校を訪問し、セミナーを開催するなどした結果、利用者が目標の1.4倍となっている。</p>		
<p>・特になし</p>			<p>・特になし</p>		
指標③ 盛岡公共職業安定所管内の就職を希望する高校3年生のうち県内就職を希望する者の割合	%	↗	当初値 (H25) 67 R1目標値 70 R6目標値 70	・インターンシップ事業や、モリオカシゴトカメラの配布など地元企業を知ってもらうための取組により、地元企業の魅力が徐々に高校生に伝わってきている。 ・企業の新卒採用に対する意識が高い。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、大都市圏の就職先を避け、地元就職を選択する傾向が高まったと考えられる。	・県内就職を希望する者の割合が昨年度より0.9ポイント増加し、目標値に近づいている。
			<p>・インターンシップ事業や、モリオカシゴトカメラの配布など地元企業を知ってもらうための取組により、地元企業の魅力が徐々に高校生に伝わってきている。 ・企業の新卒採用に対する意識が高い。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、大都市圏の就職先を避け、地元就職を選択する傾向が高まったと考えられる。</p>		
<p>・目標の到達に至っていない。</p>			<p>・賃金について、東京都の364.2千円を100とした場合、岩手県は249.6千円と68.5であり、賃金格差が顕著である(令和3年度賃金構造統計調査)ことから、県外就職を希望する者が一定数存在する。 ・高校生及び保護者が地元企業や職種に関して十分に知らないことから、県内企業が就職先として選ばれない。 ・学生にとって就職後の奨学金返還が負担となっており、返還支援を行っている県外企業を選択している可能性がある。</p>		

今後の方向性(令和4年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R4年度着手済または着手予定 ☆…R5年度以降の着手を検討
<p>★ 今後も利用者の維持・増加に向けて周知・PRを図る。 ★ 就職氷河期世代を対象とした専門の支援員を1名増員し、当該世代の活躍を支援する。</p>	
<p>★ 今後も利用者の維持・増加に向けて周知・PRを図る。</p>	
<p>★ 高校生の地元就職希望を高めるため、盛岡広域圏8市町連携によるインターンシップ事業等により、高校生により多くの企業、職種を知ってもらうための取組を強化する。 ★ 高校生インターンシップ事業について、より多くの企業に参加してもらうため、企業に対する周知を強化する。 ★ 高校生スキルアップ事業を強化し、職業観のさらなる醸成を図る。 ★ 奨学金代理返還制度の活用について、市内の企業に周知を図る。</p>	

【小施策評価(令和3年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	環境企画課	
施策	20	地球環境の保全と自然との共生	評価 責任者	池田 陽一	内線 8410
小施策	20-1	自然の保護と活用	評価 シート 作成者	鈴木 秀一	内線 8411

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度に策定した自然環境及び歴史的環境保全計画に基づき、市域の自然環境調査を行う必要があります。 また、玉山地域を中心に、自然環境及び歴史的環境保全条例に基づく環境保護地区などの新たな指定について検討する必要があります。 自然環境及び歴史的環境保全条例に基づき指定している環境保護地区、保護庭園及び環境緑化地区について、所有者・管理者や地域の理解を得ながら管理していく必要があります。 近郊自然歩道9路線について、ガイドマップを配布するとともに、環境部ホームページ上に詳細なコースマップや花暦、鳥暦などを掲載しています。今後も適切な維持管理を行い、利用者の利便及び安全確保に努めるとともに、玉山地域に新たな路線の設定について検討し、盛岡の豊かな自然環境をより広く発信する必要があります。 近年、ツキノワグマやニホンジカなどの野生動物が市街地にも出没するケースが増えており、市民の安全・安心の観点からも関係機関が連携して野生動物の適正な保全・管理を図り、生物の多様性を確保する必要があります。 	盛岡が誇るうおいや安らぎをもたらす里山の緑、きれいな水や空気を生み出す森林、河川の清らかな水辺など、かけがえのない自然や多様な生物が生息する環境を適切に守り、次世代に引き継ぐとともに、自然に親しむ機会を増やし、より多くの人々が身近に自然を感じられるような環境づくりを進めます。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
身近な自然、森林・水源、その他(動植物)	自然が守られる。
市民	自然に親しむ機会が多くなる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和3年度実績)

実績値の推移				実績の評価		今後の方向性(令和4年度以降)
指標	単位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	評価を踏まえた取組の方向性	
指標① 近郊自然歩道設置総延長	km	↗	当初値 (H25) 46 R1目標値 51 R6目標値 51	<ul style="list-style-type: none"> 散策路を安全に利用してもらえるようになった。 玉山地域において生出コースの新設整備を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 近郊自然歩道ガイドブックを観光案内所に配置したり、環境学習講座参加者へ配布する等周知に努めたため。 業務委託と市直営により、近郊自然歩道の倒木や枝の排除、草刈り、案内板の補修等が実施されているため。 	<p>★ R4年度着手済または着手予定 ☆ R5年度以降の着手を検討</p> <p>★ 近郊自然歩道を親しんでもらえるよう、見どころや崩落箇所等の危険箇所及び利用可能な交通機関等をガイドブックやホームページで周知に努める。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> コースの一部に崩落によるルートの通行ができないものや、JR東日本の大志田駅及び浅岸駅が廃止されたことによる起点・終点までの交通手段がないものがあり、近郊自然歩道の維持、管理について検討をする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の安全性の確保や、コースの修繕に費用がかかることから、利用が難しいものがある。 		
指標② 市内の公立小中学校及び市立社会教育施設で実施される自然体験、自然との共生に係る環境教育、環境啓発事業等への参加者数	人	→	当初値 (H25) 174,000 R1目標値 174,000 R6目標値 174,000	<ul style="list-style-type: none"> 市内の公立小中学校及び市立社会教育施設で実施される自然体験、自然との共生に係る環境教育、環境啓発事業等への参加者数が、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントの中止等により減少したが、開催した事業に参加してもらうことにより、環境に対する意識の啓発ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民が身近に自然環境に親しむことができる山や散策路があるため。 環境学習講座など自然を体験する機会があるため。 SDGsを取り上げられる機会が増えたことにより、環境に対する意識の啓発が行われたため。 	
			<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントが中止されたことから参加者数は目標値より少ない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントが中止となり、盛岡市動物公園が改修工事のため閉園中のため、参加者数が少ない状況である。 		
指標③ 市域における山林・農地等の面積	ha	→	当初値 (H25) 36,243 R1目標値 36,263 R6目標値 36,263	<ul style="list-style-type: none"> 市域における山林・農地等の面積が維持できていることから、森林においては二酸化炭素の吸収源となり地球温暖化防止や治山治水機能などが発揮されており、農地については保水能力の維持が図られているため、自然環境の保全に寄与している。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切な森林管理や農地管理が図られているため。 	<p>★ 継続して巡視・維持管理を行なう。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> 特になし。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。 		

指標④ 近郊自然歩道に係る巡回・作業日数				単位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
当初値 (H25)	6	R1目標値	6	日	→			
						<p>・毎年、継続して直営での近郊自然歩道の巡視を行なうことで、近郊自然歩道に係る課題等を早期に発見し、解決につなげることができている。</p>		<p>・巡視・草刈等を業務委託のみで行なっているのは課題を見落とす可能性があるが、直営の巡視も実施しているため早期に課題を発見できている。</p>
						問題点	⇒	問題の要因分析
						<p>・巡視・維持管理作業を行なう人員が不足している。</p> <p>・草刈等の委託料が、燃料代等の高騰により高くなっており、予算の確保に苦慮している。</p>		<p>・環境企画課の係員が巡視・維持管理作業を行なっているが、他の業務もあり多忙なため、自然歩道関係の業務だけに十分な時間を割くことが難しい。</p>
指標⑤ 近郊自然歩道に係る従事者数				単位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
当初値 (H25)	32	R1目標値	32	人	→			
						<p>・毎年、継続して直営での近郊自然歩道の巡視を行なうことで、近郊自然歩道に係る課題等を早期に発見し、解決につなげることができている。</p>		<p>・巡視・草刈等を業務委託のみで行なっているのは課題を見落とす可能性があるが、直営の巡視も実施しているため早期に課題を発見できている。</p>
						問題点	⇒	問題の要因分析
						<p>・巡視・維持管理作業を行なう人員が不足している。</p>		<p>・環境企画課の係員が巡視・維持管理作業を行なっているが、他の業務もあり多忙なため、自然歩道関係の業務だけに十分な時間を割くことが難しい。</p>

★ 継続して巡視・維持管理を行なっていくこと。
★ 継続して巡視・維持管理を行なっていくこと。

【小施策評価(令和3年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	環境企画課
施策	20	地球環境の保全と自然との共生	評価 責任者	池田 陽一 内線 8410
小施策	20-2	環境を大切にしている心の育成	評価 シート 作成者	鈴木 秀一 内線 8411

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市民一人ひとりの節電・省エネへの取組やライフスタイルの変革などが求められていることから、将来を担う子どもたちから大人まで、すべての市民が身近な環境から地球規模の環境問題まで関心を持ち、理解を深め、環境を大切にしている意識を高める必要があります。		市民や事業者などが利用しやすい環境情報の発信や、さまざまな環境啓発事業を通じて、市民の環境を大切にしている心の育成を図り、環境に配慮した行動を促進します。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民		地球環境の保全の大切さが理解される。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和3年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① まちづくり評価アンケート調査「CO2の発生抑制やごみの減量など、地球環境にやさしい生活を常に心がけている」と答えた市民の割合	%	↗	・環境部ホームページ(ecoもりおか)の更新回数を増やすため、各課・各施設の更新を必ず最低1回はするようにしたが、閲覧数増加にはつながらなかった。 ・閲覧者が前年度比86.4%で減少しているが、ページビュー数は増えており、ecoもりおか内で複数のページを閲覧いただいている状況がうかがえる。	⇒	・各種行事の参加申し込みを「ecoもりおか」からできるよう広報やホームページで周知し、申し込みを機にアクセスするきっかけになっていると思われるが、新型コロナウイルス感染防止のため主催行事が減少し(年間23回程度→18回)、閲覧機会も減ってしまった可能性が考えられる。
当初値 (H25) 81 R1目標値 83 R6目標値 83			・まちづくり評価アンケートによる、地球環境にやさしい生活を心がけている市民の割合が目標値に達していない。	⇒	・「地球環境にやさしい生活」を心がける理由とその方法が周知しきれていない。
指標② 市内の公立小中学校及び市立社会教育施設で実施される地球環境への貢献に係る環境教育・環境啓発事業への参加者数	人	↗	・エコライフ推進イベントをR2と同様、動画を作成しYouTubeで配信し、動画再生回数は5,688回であった(前年度8,529回、33.3%減少)。一方で、R2以上に多くの好意的なご意見が寄せられた。	⇒	・エコライフ推進イベントの動画配信は、マスコミを通じて宣伝をしたり、各町内会・自治会や学校にチラシを配布するなどしたものの、R2のような注目を集めるトピック(温泉やコンサート)がなかったために視聴回数が増加しなかったと考えられる。
当初値 (H25) 22,874 R1目標値 23,000 R6目標値 37,000			・環境学習講座はコロナ禍により回数を減らしたものの、1回あたりの講座参加者は平均25人、参加総数455人となり、H26年度以降最も開催数も多く参加者も多かったR1の1回平均22人を上回った。	⇒	・環境学習講座はほぼ毎回講師を依頼し、環境部ならではの視点やアプローチをすることで特色を打ち出しており、他機関で開催する講座との違いが参加者増加の一因と思われる。
・コロナ禍により、人を集めてのイベントや講座は制限せざるを得なかったものの、それに代わるものを動画配信だけでなく、幅広く検討する必要がある。 ・市内全小学4年生を対象とした子どもエコチャレンジへの参加が減少傾向にある。					
・動画配信も一定の成果が出たものの、偶然たどり着く確率は低く、ロコミやチラシ配布などだけでは、宣伝効果は十分とはいえない。 ・子どもエコチャレンジへの参加は、文書依頼により各小学校の判断に委ねているため、小学校への参加協力の働きかけが不十分である可能性がある。					
			問題点	⇒	問題の要因分析

今後の方向性(令和4年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R4年度着手済または着手予定 ☆…R5年度以降の着手を検討
★ 環境部ホームページの内容の更なる充実を図るとともに、更新頻度の増加、イベント実施のプラットフォームとしての活用などにより、啓発ツールとしての価値を高める。	
★ 市民が「地球環境に優しい生活」に取組めるよう、具体的な取組事例をホームページや広報もりおか、環境学習講座等で広く周知する。	
★ きれいな街推進懇話会に参加し、市民に直接説明とPRをする。	
☆1 様々な業種や団体と協働してPRIに努め、連携協定を利用するなどしながら幅広い層に働きかけていく。	
★ 感染予防をしながら、エコライフ推進イベントの内容の更なる充実を図る。	
★ 環境学習講座の内容や日程・募集人員を精査し、参加しやすい設定を検討する。	
☆ 子どもエコチャレンジの参加校を増やすため、特に例年不参加の小学校に対して、電話や訪問などで取組の意義を訴えるなど、参加の呼びかけを行う。	

【小施策評価(令和3年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	廃棄物対策課	
施策	20	地球環境の保全と自然との共生	評価 責任者	山内 真澄	内線 8300
小施策	20-3	資源循環型社会の形成	評価 シート 作成者	南幅 嘉人	内線 8301

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
ごみ総排出量は、年々減少している状況です。資源を大切にし、地球環境の保全に貢献するため、引き続き一般廃棄物の減量に向けて取り組む必要があります。		市民・事業者・行政の三者が協働して、廃棄物の発生抑制、資源の再利用・再生利用などに取り組むとともに、廃棄物処理の広域化を推進し、ごみの減量や廃棄物のリサイクルを図り、限りある資源の循環的利用を推進します。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民・事業者 廃棄物		資源の再利用、再生利用に取り組む 発生が抑制される

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和3年度実績)

実績値の推移				実績の評価		
				成果点	⇒	成果の要因分析
指標①	家庭ごみ(資源を除く)の1人1日あたりの排出量	単 位	g	目指す方向	↘	
当初値 (H25)	509	R1目標値	459	R6目標値	417	
				<p>・家庭ごみ(資源を除く。)の1人1日あたりの排出量が令和元年度並みまで減少している。</p> <p>・借家タイプ地域及び外国人への対策に絞り、スマートフォン用アプリの活用について検討した。</p>	⇒	<p>・新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の普及等により、外出自粛等の緩和、家財整理が一段落したものと考えられる。</p> <p>・きれいなまち推進員等と連携した家庭ごみ(資源を除く。)の減量に向けての各種事業により、家庭ごみの分別排出及び資源化に関する市民の意識が徐々に高まりつつあり、減少傾向に結びついている。</p> <p>・若年層世帯及び外国人をターゲットに、スマートフォン用「資源ごみ分別アプリ」を7月から本格導入し、利用者数が確実に伸びている。</p>
				問題点	⇒	問題の要因分析
				<p>・コミュニティ地区ごとに、ごみの排出状況(減量化・分別等の状況)が異なっている。</p> <p>・可燃ごみ組成分析の結果では、分別すれば資源となるものが25%、食品ロスが12%混入している。</p>	⇒	<p>・地域の特性によりコミュニティ活動の取組に差が生じており、このことがごみの排出状況にも影響しているものと考えられる。</p> <p>・分別を徹底してもらうことや食品ロス削減に取り組んでもらうことで更なるごみ減量が可能である。</p>
指標②	事業系一般廃棄物の年間排出量	単 位	t	目指す方向	↘	
当初値 (H25)	44,427	R1目標値	36,754	R6目標値	30,359	
				<p>平成28年度から排出量の減少率が鈍化していたが、令和2年度に大幅に減少し、令和3年度も同様な傾向となった。</p> <p>・令和2年度から事業系一般廃棄物における古紙の搬入規制を実施している。</p> <p>・事業系一般廃棄物の排出量は減少したが、新型コロナ感染症感染防止のため、事業者の営業縮小により事業系ごみが減少したこと、また、組成分析が実施できず、その取組の検証ができなかった。</p>	⇒	<p>・主な要因として、令和2年度同様に、新型コロナウイルス感染症の影響で事業活動が縮小傾向となったことより、排出量が減少していると推測しているが、事業系古紙類の搬入規制に係る搬入施設での立会指導やチラシ配布、地区ごとに事業者へ直接訪問して適正処理の周知指導を行う「ローラー作戦」を継続実施しており、これまで中止していた組成分析の実施により成果を分析する必要がある。</p> <p>・事業者の営業縮小はあるものの、資源回収業者へのアンケートでは、事業者による古紙等の資源の搬入が増えているとのことであり、前年度に引き続き、搬入規制による一定の効果はあったものと思われる。</p>
				問題点	⇒	問題の要因分析
				<p>・事業系一般廃棄物の排出量は減少しているが、毎月実施しているリサイクルセンターでの搬入物調査において、産業廃棄物と思われるごみの混入が見受けられる。</p> <p>・地区別排出量データにおける商業地域で、家庭ごみ用ごみ集積場所への排出がみられる。</p> <p>・事業者への周知については、分別辞典を作成し配布しているが、周知が行き届いていない。</p>	⇒	<p>・事業者によっては廃棄物処理に係る知識等が十分ではなく、適正な排出・処理が行えていない可能性がある。</p> <p>・一定規模以上の事務所や大規模小売店舗に条例で提出を義務付けている「事業系一般廃棄物減量等計画書」や事業系ごみの排出実態の把握のほか、一般廃棄物の収集・運搬許可業者に対する適正処理に向けた指導及び研修会の開催等を継続的に実施しているが、事業者十分に周知しきれていないことから、廃棄物の適正処理及び事業系古紙類の搬入規制について、引続き事業者向けごみ分別辞典等を活用し訪問活動や説明会を行うなど、事業者へ十分な周知を行う必要がある。</p>
指標③	資源率	単 位	%	目指す方向	↗	
当初値 (H25)	25	R1目標値	29	R6目標値	33	
				<p>・資源となる紙類の流通量は減っているが、資源率の減少には至っていない。</p>	⇒	<p>・分別・資源化の啓発等の各種事業により、資源の排出が誘導されたと考えられる。</p>
				問題点	⇒	問題の要因分析
				<p>・平成28年度から資源率が横ばい傾向であったが、令和元年度からやや減少している。</p> <p>・資源率の算定基礎数値である家庭ごみの総排出量は減少したが、資源の量は大きく変化がなく、更に新型コロナウイルス感染症の影響で集団回収量が減少したため、資源率は横ばいとなった。</p> <p>・資源の量はもともと減少傾向にあったが、令和3年度は令和2年度から総排出量が微減し、資源の量は横ばいであったため、令和2年度と同等の資源率となった。</p>	⇒	<p>・資源率は、(行政回収資源量+資源集団回収量)/(家庭ごみ排出量+資源集団回収量)で算定される。容器包装の軽量化や資源物の流通量の減少等が進む中で、行政が回収する資源量と資源集団回収量の合計値は減少していることや、小売業者等による店頭回収の推進など、排出方法の充実化等の影響も考えられる。</p> <p>・資源集団回収は、新型コロナ感染症の影響を考慮し、報奨金の交付要件を緩和(3回以上⇒1回以上)したが、活動団体数は大きく減少した。新型コロナウイルス感染症の影響推移を見ながら、必要があれば集団回収の在り方について検討する必要がある。</p> <p>・資源率は、(行政回収資源量+資源集団回収量)/(家庭ごみ排出量+資源集団回収量)で算定される。資源の量の減少については、電子化による紙の減少、容器包装の軽量化、小売業者等による店頭回収及び民間事業者のステーション回収などの影響が考えられる。</p>

今後の方向性(令和4年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R4年度着手済または着手予定 ☆…R5年度以降の着手を検討
<p>★地区別収集データに加え、当該地区の組成分析結果、資源集団回収量、小売店における店頭回収量のデータ等を活用し、地区毎の排出傾向等の分析する中で、地区ごとの特徴も見られたが、その対策について検討を行う。</p> <p>★資源ごみ分別アプリの周知を継続し、利用者の増加を図る。</p> <p>★盛岡市一般廃棄物処理基本計画(令和4年3月見直し)において、重点施策に定めた食品ロス削減に向けた取組の推進を図る。</p>	
<p>★令和2年4月から開始した事業系古紙の搬入規制を引き続き実施する。また、一般廃棄物の収集・運搬許可業者に対する適正処理に向けた指導及び研修会を実施するほか、周知啓発・指導を継続し、処理の適正化を推進する。</p> <p>★搬入規制に伴い、搬入物調査を強化拡充する予定であったが、破袋を伴う調査のため、新型コロナウイルス感染予防の観点から見合わせており、実施時期について、状況を踏まえ搬入物調査を強化拡充して行う。</p> <p>★地区別排出量データに基づく商業地域において、直接事業者を回って周知する「ローラー作戦」を開始し、令和4年度も継続する。</p> <p>★盛岡市一般廃棄物処理基本計画(令和4年3月見直し)において、重点施策に定めた食品ロス削減に向けた取組の推進を図る。</p>	
<p>★コミュニティ推進地区単位のごみ排出状況等の分析データを該当地区の懇談会・説明会で具体的に示し、地区の特徴に対応したきめ細やかな周知啓発を実施する。各地区における取組内容については、該当地区のきれいなまち推進員・町内会・自治会役員等と連携しながら検討を進め、地域の住民の実践行動につなげる。</p> <p>なお、当該指標は盛岡市一般廃棄物処理基本計画の管理指標でもあるが、資源化の主体や環境に変化があることを踏まえ、どのように評価を行うかも含めて、継続して検討する必要がある。</p> <p>★当該指標は盛岡市一般廃棄物処理基本計画の管理指標でもあるが、行政回収及び資源集団回収の実績を対象としており、小売店による店頭回収、資源の24時間受入れ事業者の出店、フリーマーケットアプリなど、資源化の主体や環境に変化があることを踏まえ、指標として妥当性を引き続き検討する必要がある。</p>	

【小施策評価(令和3年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	3	人を育み未来につなぐまちづくり	小施策 主管課等	環境企画課	
施策	20	地球環境の保全と自然との共生	評価 責任者	池田 陽一	内線 8410
小施策	20-4	地球温暖化対策の推進	評価 シート 作成者	鈴木 秀一	内線 8411

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
市域における温室効果ガス排出量は、東日本大震災後の平成24年度をピークに減少傾向にあるが、地球温暖化対策を進め、更なる削減が必要である。地球温暖化対策実行計画の目標年度である令和12年度における温室効果ガス排出量の31%削減(平成25年度比)に向け、地域経済の好循環にもつながる再生可能エネルギーの普及拡大やエネルギーの地産地消を促進するとともに、市民の省エネ行動の啓発などを効果的に進めていく必要がある。	温室効果ガスの排出削減のため、太陽光、風力、木質バイオマスなど、再生可能エネルギーの普及促進や、省エネ機器の導入などによるエネルギーの効率的な利用を促進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民・事業者	温室効果ガス排出量を抑制する。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和2年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標① 温室効果ガスの総排出量		単 位	目指す方向	成 果 点	成果の要因分析
当初値 (H25)	2,463	千t-co2	↘		
R1目標値	2,193				
R6目標値	1,969				
				<ul style="list-style-type: none"> ・「盛岡市住宅用太陽光発電システム等設置費補助金」により、97件の太陽光発電システム等が設置された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電システムに対する補助についての周知が広がり、ハウスメーカー等の事業者が積極的にシステム導入を勧めている。
問題点				問 題 点	問題の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> ・補助事業の財源である「地球温暖化対策実行計画推進基金」の残高が減少しており、事業の継続が難しくなっている。 ・市有施設への太陽光発電システム導入が足踏み状態である。 					<ul style="list-style-type: none"> ・支出(事業費)に比べ、収入(積立額)が少ない。 ・国の補助メニューはあるものの、単費持ち出し分の財源確保が難しい。

今後の方向性(令和3年度以降)

<p>評価を踏まえた取組の方向性</p> <p>★…R4年度着手済または着手予定 ☆…R5年度以降の着手を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 改修を予定している施設への再生可能エネルギー導入に向けて、所管課と協議を進める。 ★ 基金の残高が減少しているため、太陽光発電システム等補助金の補助対象から蓄電池を除き、一人当たりの交付金額を圧縮し、より多くの市民に補助を利用いただけるようにする。 ★ 地球温暖化対策実行計画推進基金の財源を確保するため、寄附やふるさと納税の増額につながるような事業内容を検討する。 ☆1 クリーンエネルギー自動車の普及や住宅改修への補助など、財源を確保し、国の補助を利用しながらも、市としての独自施策を打ち出していく。
